

鍋島議員、大下議員が聴く 世代を超えてみんなで取り組む 西高屋のにぎわいづくり

表紙写真／西高屋駅前でまちづくりを進める皆さん

JR西高屋駅前通りの空き家の増加や老朽化が進行する中、駅周辺の活力や魅力を高めようとする地域住民や地元事業者の方々が集まって設立したまちづくり会社である合同会社G11の皆さん、また、G11と連携して「学生と地域がつながる拠点づくり」に取り組む皆さんに話を伺いました。

プロフィール



近畿大学工学部建築学科
教授 市川 尚紀さん



合同会社G11
代表 菅井 晃彦さん



合同会社G11
副代表 木村 将希さん



合同会社G11
顧問 井上 泰秀さん



合同会社G11
役員 板垣 護さん



株式会社マエダハウジング
松本 和之さん



近畿大学工学部建築学科
五十嵐 千帆さん



近畿大学工学部建築学科
山崎 由佳さん

若い世代の「やってみたい！」を応援したい 人が繋がりはじめた新たなうねり

Q まちづくり会社を設立した
きっかけを教えてください。

菅井 高屋が賑やかだった頃から、次第に寂しい雰囲気になっていく状況を見てきたので、「このままではいけない」と強い想いを抱いていました。そして、考えを共にする仲間たちが増え

ていき、市と近畿大学の※Town & Gown構想で取り組むまちづくりプロジェクトなどへの本格的な参画も経て、今年6月にまちづくり組織として合同会社G11を設立しました。

Q 地域の魅力は何ですか。
市川 地域の特徴は若者がたく

さんいること。中高一貫の学校もあり電車で通う学生がこれだけいることは強みとして生かせるでしょう。現在、空き家をリノベーションして交流拠点づくりに取り組んでいます。最終的に地域や関わる人のここの暮らしが豊か

になることが大切だと思います。

五十嵐 参加してみようと思ったのは、「地域を良くしたい」という熱い大人が多いこと。私自身、高屋の未来を担っていると言ったら言い過ぎかもしれませんが、未来に関わっているという意識が高まってきて、地域への愛着が湧いてきています。

板垣 僕は空港から近いところに移住先を探していてなんとかここに来たというのが最初ですが、今は高屋の人のつながりがすごく魅力的だと思っています。エントナメ作りを通じて、将来はクリ

持続可能な未来のビジョンを共有する東広島市と大学が包括的、日常的、継続的、組織的な関係を構築し、持続的な地域の発展と大学の進化をともにめざす構想のこと。



- ① 取材風景
- ② ワークショップの様子
- ③ 第1回西高屋駅前 夏の学園祭
会場の外観（8月20日開催）
- ④ 夏の学園祭 eスポーツパ
ブリックビューイング
- ⑤ 夏の学園祭 縁日の賑わい
- ⑥ 夏の学園祭 手作りポスター
- ⑦ 空き家のリノベーションの様子

エイティブなことに携わりたいと思っている学生に全国から集まってもらえるまちにしたいです。

Q 活動のやりがいを教えてください。

松本 僕が参加したきっかけは、勤めている会社の活動として地域貢献をできたらと市に相談したところ、皆さんの活動を紹介されて、本業のリノベーションを通してつながりをつくっていきます。みんなのアイデアが集まって色々なエネルギーがつながり、大きなうねりになっています。

木村 8月には高屋を本拠地とするeスポーツチームのプロリーグ参戦の様子を応援するイベント「夏の学園祭」を学生運営で開催しました。「にぎわいが戻った」と地域の方も喜んでくださいました。

山崎 大学生がまた戻ってきたと思うことはすごく素敵。学生の意見を大人の皆さんが丁寧に聞いてくださるので、今後、後輩たちが活動に参加し、卒業後も戻ってくるような流れが

できたらいいなと思っています。

井上 私は住民自治協議会の副会長でもあります。活動の中で、若者の「親や祖父母世代とこんなにまちのことを話したことは今までありません」という言葉が印象に残っています。新しい動きは起爆剤になっていて、人間関係のリノベーションが起っています。今後、活動が壁に直面することもあるかもしれませんが、年寄りにできることはその壁を取り除いていくことです。しっかり応援していきたいです。

Q どんなまちにしていきたいですか。

菅井 大人がアイデアを用意するのではなく、若い世代のアイデアをどんどん形にしていけるような、高屋に来たら夢が叶うようなまちにしたいです。

市川 10年スパンの話で、この地域を「帰りたくなったときに帰れる場所」にできたらいいなと思います。とにかくゆっくり、少しずつじわじわと。今は種まきのタイミングです。